

平新報

發行日 五月二十日 發行所 平野邊庄吉 編集者 平野邊庄吉 印刷者 平野邊庄吉 電話 五〇七番

磐中同窓總會

關內會長他役員重任

改制された同會規約

會計其他大要通報

磐中同窓會會計報告

（自昭和九年一月一日起至本年八月）

收入之部
昭九年一月一日起至本年八月

支出之部
昭九年一月一日起至本年八月

繰越金
昭九年一月一日起至本年八月

昭九年八月十日
會長 關内正一
會計 廣田德行

磐中同窓會總會は例年の故仲里副會長が保管中紛失
如く去月十日午後一時よりせらるるで校友會誌や本紙
母校に於て開催したが今期上より抄出して新たに時代
は役員改選に當り會長關内正一に改選せらるるもの
内正一氏以下重任、辭任役である、尙ほ斷り置きた
員一名は松井深氏指命され事は全日午後七時より別記
た、それが役員の新陳容左懸親會に出席者左の如く谷
の如く、

磐中同窓會會計報告
收入之部
昭九年一月一日起至本年八月
支出之部
昭九年一月一日起至本年八月
繰越金
昭九年一月一日起至本年八月
昭九年八月十日
會長 關内正一
會計 廣田德行

平野邊庄吉
山崎忠兵衛
松井深
佐藤作平
野崎喜八郎
野崎久利
山本三郎
齋藤榮一
山名隆貞
高木富士郎
石川友次郎
廣田德行
原精一
中野惠治
上田耕作

磐城中學校同窓會規約

本會は磐城中學校
卒業生及び四學年修了者にては總會協賛の上會長之を
推薦するものとす、
評議員數並に任期は之を定
めず、
第十條 本會に協賛會を
組織す、
第十一條 本會に臨時重要
案件の生じたる場合には協
賛會を開き所理決定するも
のとなす、
第十二條 本會規約は總會
改正することを得、
第十三條 會員は入學就職
後一年より母校に於て
住所の移動を本會事務所宛
通知するものとす、

平野邊庄吉
山崎忠兵衛
松井深
佐藤作平
野崎喜八郎
野崎久利
山本三郎
齋藤榮一
山名隆貞
高木富士郎
石川友次郎
廣田德行
原精一
中野惠治
上田耕作

平野邊庄吉

平野邊庄吉
山崎忠兵衛
松井深
佐藤作平
野崎喜八郎
野崎久利
山本三郎
齋藤榮一
山名隆貞
高木富士郎
石川友次郎
廣田德行
原精一
中野惠治
上田耕作

平野邊庄吉
山崎忠兵衛
松井深
佐藤作平
野崎喜八郎
野崎久利
山本三郎
齋藤榮一
山名隆貞
高木富士郎
石川友次郎
廣田德行
原精一
中野惠治
上田耕作

和洋銅鐵金物商

和洋銅鐵金物商
電話 九九番

和洋銅鐵金物商
電話 九九番

釜屋商店

釜屋商店
電話 九九番

釜屋商店
電話 九九番

高久病院

高久病院
電話 五一三番

高久病院
電話 五一三番

關内藥局

關内藥局
電話 四〇番

關内藥局
電話 四〇番

吸入用酸素

吸入用酸素
純度 99%

吸入用酸素
純度 99%

藤沼醫院

藤沼醫院
電話 五〇七番

藤沼醫院
電話 五〇七番

西村屋藥舖

西村屋藥舖
電話 三三番

西村屋藥舖
電話 三三番

平野邊庄吉

平野邊庄吉
電話 五〇七番

平野邊庄吉
電話 五〇七番

知人消息

知人消息
小橋久太郎氏 過般の
諸橋久太郎氏 過般の
縣農工重役改選に際し取締
役に選任された。

知人消息
小橋久太郎氏 過般の
諸橋久太郎氏 過般の
縣農工重役改選に際し取締
役に選任された。

平野邊庄吉

平野邊庄吉
電話 五〇七番

平野邊庄吉
電話 五〇七番

平野邊庄吉

平野邊庄吉
電話 五〇七番

平野邊庄吉
電話 五〇七番

平野邊庄吉

平野邊庄吉
電話 五〇七番

平野邊庄吉
電話 五〇七番

平野邊庄吉

平野邊庄吉
電話 五〇七番

平野邊庄吉
電話 五〇七番

平野邊庄吉

平野邊庄吉
電話 五〇七番

平野邊庄吉
電話 五〇七番

平野邊庄吉

平野邊庄吉
電話 五〇七番

平野邊庄吉
電話 五〇七番

平野邊庄吉

平野邊庄吉
電話 五〇七番

平野邊庄吉
電話 五〇七番

平野邊庄吉

平野邊庄吉
電話 五〇七番

平野邊庄吉
電話 五〇七番

養蠶の先進地

静岡縣をのぞいて

福島縣石城郡養蠶獎勵會長
農業技手 木田 藤次郎

静岡縣の蠶品種に就て前號を嗣明せられたに對し更に
にも申上げた如く蠶品種の試験場で大規模の研究を進
数は明治廿五年より同三十、遂に大正三年原蠶種配
年頃迄其數五十三種を算す布を敢行するに至り、静岡
蠶家が其の採擇歸趨に迷滞所(大正十一年十一月蠶
つたので静岡縣に於ては三業試験場と稱す)を創設し
十四年度から三ヶ年間、又て原蠶種の配布を行ふ事
昔、青熟中葉、小石丸、白した。
玉、の四種を製造せしめる一般の飼育品種は蠶種製
厘、製用蠶種には一枚五五五五五五五五五五五五五
畿以内の縣費補助を行つての静岡縣蠶種製造場は蠶
只管整理に努めたものであり、青熟中葉、白龍、
つた。

其結果指定品種の飼育が多量小石丸、金城又昔、青
くなり二十種位に減じたが青熟中葉、鳥村、大葉又昔、
れども、更に其後生絲の輸賣石丸、の順位で之が九割
出増加につれ、蠶絲業は目上を占め、其他を合し四
醒しく勃興し、明治四十年十五種。
前後に於て異數の發展を見及ぶ蠶種は中葉大又、大
ると同時再び兩系統一問題龍、種々島、大和錦、白飛
が擡頭し來り、良品種選定白、大草、青熟中葉長、白
蠶質改良のために外國種を龍、等を主として四十種で
加へて愈々品種は激増の趨勢があつたが、大正五年頃
勢となつたのである。
蠶質改良の統一の聲は蠶種製造場が蠶種を以て多數を
蠶種改良の統一の聲は蠶種製造場が蠶種を以て多數を
蠶種改良の統一の聲は蠶種製造場が蠶種を以て多數を

が上位に居たけれど前年か
ら掛合せが増加し、大正六
年が最も多く養蠶品種の數
を統計的に掲げると、
大正二年四六、大正三年三
八、大正四年四六、大正五
一、大正六年一〇一
に於て此種家畜講習室の設
備完成したるにつき小學校
に於て此種家畜講習室の設
備完成したるにつき小學校
に於て此種家畜講習室の設
備完成したるにつき小學校

乞御諒承

平新報社
山野邊庄吉

一、小生家事の都合上本年三月末日玉川村岩出に
引き揚げ歸農してより九月、不慣れな農事と家
政整理に忙殺され本紙編輯其他は安藤信義氏の援
助をうけ今日に至り來したが、農閑期とも相成り
家政整理も大略その要を得ましたので安藤氏の援
助を斷り在平當時に還つて自ら執筆經營の衝に當
る事となりました。

平新報社
山野邊庄吉
玉川村岩出問題
松本ヨネ子女士 啓中
校書記松本忠民氏夫人 啓中
子さんは去月二十日永眠さ
れ二十二日朝澤澤の同氏宅
に告別式執行下小川安養寺
に葬送された

玉川村岩出問題
松本ヨネ子女士 啓中
校書記松本忠民氏夫人 啓中
子さんは去月二十日永眠さ
れ二十二日朝澤澤の同氏宅
に告別式執行下小川安養寺
に葬送された

野崎満藏

玉川村長

草野村長

渡邊重彌

近藤廣記

高木保

澄川康哉

緑川秀男

鈴木一男

岡田朝五郎

菅野源重

中村醫院

武藏鐵工場

山口屋

春乃家

御料理
平町田
春乃家